

これからも
「信頼の大樹」を
たゆみなく
育てていきます。



信頼回復に向けて、昨年度より全社的に取組んできた「すべての人を大切に想う」CSR経営。その方針のもと、本格的なCSR活動も2年目を迎えました。信頼の大樹の枝葉を、さらに広げていくための継続的な努力、そして新たな挑戦。本年度は、その取組みのより具体的な目標と実績をご報告させていただきます。

自然災害の多かった一年を振り返り

東日本大震災から一年が経ち、被災された皆様には改めてお見舞いを申し上げます。また、大型台風、集中豪雨、豪雪、竜巻など、この一年は多くの自然災害にみまわれました。自然の持つ影響力の大きさを思い知らされるとともに、そのためにライフスタイルまでも見直しを迫られ、人と人との絆や信頼関係の大切さを改めて問い直したとも言えるでしょう。「コンクリートから人へ」という風潮の中、「防災」に関する事業など「安心・安全確保」のための社会基盤整備や維持管理の重要性から、建設業の必要性が改めて広く認識されたものと思われま

す。引き続き当社は、国土の基盤整備を担う企業として事業活動を通じ、あらゆる災害復興のお手伝いができるよう全力でご支援させていただく所存です。

西松のこれまでとこれから

西松建設は、今年で創業138年を迎える歴史と伝統のある会社です。モノづくりの精神と高い技術は今なお脈々と受け継がれています。また、海外での歴史も深く、

今年には香港が、来年にはタイがそれぞれ進出50周年を迎えるなど、特に東南アジアで多くの実績を残しています。

建設業界をとりまく状況は依然として厳しい事業環境にあると言えます。特に最近では総合建設業に対するニーズが変化し「安心・安全な社会インフラの確保」「既存ストックの長寿命化への取組み」「海外への積極展開」「民間の知恵・資金の活用」「新たなビジネスモデルの創造」「集約的社會インフラの構築」が謳われています。今年度より社内体制を事業本部制に改めた中で、各事業本部を中心に最大限の力を発揮することによって、持続的発展を目指す企業となり得ることと信じています。そして、持続的発展を目指す企業こそが「すべてのステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を構築する」ことができるのだと思います。

CSRビジョンと目標設定

「CSR経営方針」のもと、西松の本格的なCSR活動も2年目を迎えました。2011年度は、昨年のCSRレポートで開示した「7+1の活動ポイント」と2020年のあるべき姿

社是

勇氣、礼儀、正義
～挑戦する姿勢、感謝する気持ち、正しい姿勢～

企業理念

培ってきた技術と経験を活かし、
価値ある建造物とサービスを社会に提供することで、
安心して暮らせる持続可能な社会・環境づくりに貢献する。

■中期経営計画2014 基本方針



「N-Vision2020」に対して、活動ポイントのそれぞれに具体的な目標を設定してきました。現状とのギャップを見出し、より具体的な中長期目標を検討・抽出し、何度も議論を重ね、最終的には長期→中期→単年度の課題と目標が整理され、優先度の識別をすところまでに至りました。今後はこの目標に沿ったPDCAサイクルを確実に進めることが即ち、当社の「CSR経営」の実態となっていきます。

そして、この目標設定作業に並行して検討を進め、策定したものが、2015年3月期を最終年度とする「中期経営計画2014」です。修正中期経営計画では、2011年度までを「基礎固め期」としてきましたが、その後の2014年度までの3カ年を「成長期」と位置づけ、「発展期」と定めた次期3カ年に向けた安定的収益基盤の構築を目指して策定しました。今後は、「建設事業」「開発・不動産事業」「新規事業」を事業の柱として展開していきます。「建設事業」では、国内の安定的受注・収益確保と海外での戦略的な事業規模の拡大を目指し、「開発・不動産事業」では、CRE戦略の本格化とともに事業の強化・拡充を進めます。そして「新規事業」においては、新たなビジネスチャンスの発掘とパイロット事業(植物工場等)の実践展開を進めていきます。また、これら3本柱を支える土台、事業基盤の強化として

「N-Vision2020」にもとづくCSR、組織、人事、財務、技術での強化を図っていきます。

最後に

当社は未だ、2009年の不祥事により失ってしまった信頼の回復途上にあると言えます。「信頼の大樹」を育てるためには、全社員の日々の誠実な行動の積み重ねが必要不可欠です。「古き良き日本の会社」を大切にしながらも、危機感の持続と全社的な努力を継続し、強いリーダーシップをもって取組んでいく。社是である「勇氣、礼儀、正義」を根源とし、ステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を構築する「すべての人を大切に想う」CSR経営を実践してまいります。

このCSRレポート2012は、昨年の創刊に続く第2号となります。2009年の不祥事を正面から取り上げ、信頼回復をお約束した昨年のレポートから、今年はより具体的な目標設定と実績を盛り込み「前向きなレポート」となるよう努めました。読者の皆様には、忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、引き続きご支援の程よろしく願いいたします。

代表取締役社長 **近藤 晴貞**